

## 日本血液学会 2022 年度事業報告 (2021 年 8 月 1 日～2022 年 7 月 31 日)

### 研究支援事業 学術集会の開催

#### 第 83 回日本血液学会学術集会 プログラム概要

テーマ: Homeostasis and Resilience – 恒常性と復元力 –

会期: 2021 年 9 月 23 日 (木・祝) ～25 日 (土)

※ライブ配信: 2021 年 9 月 23 日 (木・祝) ～25 日 (土)

※オンデマンド配信 (教育講演): 2021 年 9 月 23 日 (木・祝) ～10 月 15 日 (金)

※ライブ録画配信 (学術プログラム・コーポレートセミナーの一部):

2021 年 10 月 4 日 (月) ～10 月 15 日 (金)

会長: 張替 秀郎 (東北大学大学院 医学系研究科 血液・免疫病学分野)

開催形式: 完全 Web 開催

※仙台での現地開催なし 但し、会長講演、社員総会は一部関係者のみ現地集合→Web 配信

受賞式・JSH 学会賞受賞講演は一部関係者のみ 9/23 現地収録→9/25 Web 配信

※座長・演者・参加者は、すべて Web 会議システム「Zoom」で オンライン (リモート)

参加者数: 6,591 名

プログラム:

【ライブ配信プログラム】 ライブ配信日程で Live-Web 配信

- 1) 会長講演 1 セッション (1 演題)
- 2) Special Lecture 2 セッション (2 演題)
- 3) ASH Special Lecture 1 セッション (1 演題)
- 4) EHA Special Lecture 1 セッション (1 演題)
- 5) JSH 学会賞受賞講演 1 セッション (1 演題)
- 6) Plenary Session 1 セッション (6 演題)
- 7) Presidential Symposium 1 セッション (4 演題)
- 8) JSH-ASH Joint Symposium 1 セッション (4 演題)
- 9) JSH-EHA Joint Symposium 1 セッション (4 演題)
- 10) Asian Joint Panel Discussion 1 セッション (7 演題)
- 11) シンポジウム 9 セッション (42 演題)
- 12) 特別シンポジウム 1 セッション (4 演題)
- 13) 女性医師キャリアシンポジウム 1 セッション (3 演題)
- 14) Clinical Debate 4 セッション (8 演題)
- 15) 優秀ポスター 3 セッション (32 演題)
- 16) 一般演題口演 114 セッション (542 演題)
- 17) 一般演題ポスター 53 セッション (432 演題)
- 18) Scientific Exchange Training Program (SETP) 4 セッション (4 演題)
- 19) コーポレートセミナー 79 セッション (90 演題)
- 20) Industry Session (企業セミナー) 3 セッション (3 演題)
- 21) 公開シンポジウム 1 セッション

【オンデマンド配信プログラム】 事前にセッションの内容を収録し、オンデマンド配信日程で配信。

- 1) 教育講演 55 セッション (55 演題)

【ライブ録画配信プログラム】 ライブ配信されたの内容を収録し、ライブ録画配信日程で配信。

会長講演、Special Lecture、ASH Special Lecture、EHA Special Lecture、JSH 学会賞受賞講演 Presidential Symposium、JSH-ASH Joint Symposium、JSH-EHA Joint Symposium シンポジウム、特別シンポジウム、女性医師キャリアシンポジウム、コーポレートセミナーの一部

## 国 際

・第83回日本血液学会学術集会 (WEB 開催) における ASH および EHA Special Lecture/JSH-ASH Joint Symposium/JSH-EHA Joint Symposium/Asian Joint Panel Discussion

### ASH Special Lecture

Stephanie J. Lee “Use of patient-reported outcomes in clinical care and research”

JSH-ASH Joint Symposium <Recent Advance in the Immunotherapy for Multiple Myeloma>

Deepu Madduri, Suzanne Lentzsch, Takumi Ito, Hideki Goto

### EHA Special Lecture

Elizabeth Macintyre “Immature T lymphoid malignancies: frontier states”

JSH-EHA Joint Symposium <New Phase of the Treatment of Intractable Lymphoma>

Andrés J. M. Ferreri, Martin Dreyling, Momoko Nishikori, Mamiko Sakata-Yanagimoto

Asian Joint Panel Discussion <Virus-Associated Lymphoid Malignancies in Asian Countries>

Changiu Qu(China), Chieh-Lung Cheng(Taiwan), Udomsak Bunworasate(Thailand), Dok Hyun Yoon(Korea), Pankaj Malhotra(India), Ng Siok Bian(Singapore), Takuya Fukushima(Japan)

・The EHA2022 Hybrid Congress における EHA-JSH Joint Symposium

<Hereditary myeloid cancer in adults>

Chairs: Elizabeth Macintyre (EHA President) & Itaru Matsumura (JSH President)

Seishi Ogawa “DDX41”

Cristina Mecucci “Germline variants and predisposition in myeloid neoplasms”

・JSH Travel Award for the EHA2022 Hybrid Congress in Vienna

木村 真衣子 (岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科) Oral 発表

“Alteration of bone marrow niche by allogeneic immune reaction after HSCT”

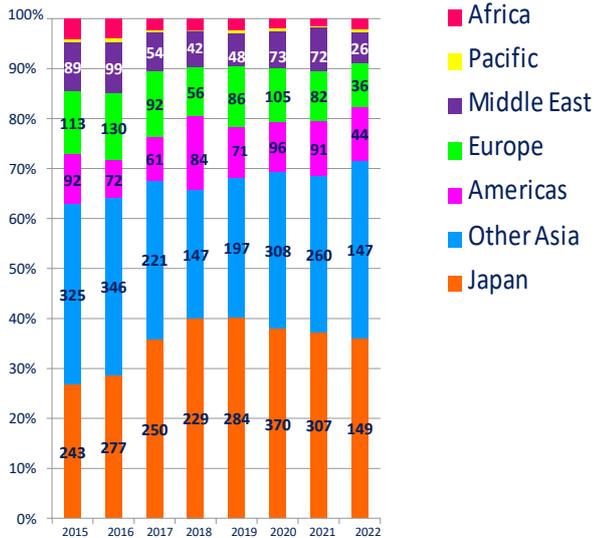
須摩 桜子 (筑波大学 人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻) e-Poster 発表

“Single-cell RNA sequencing reveals tumor cell heterogeneity and comprehensive immune profile of T follicular helper cell lymphoma”

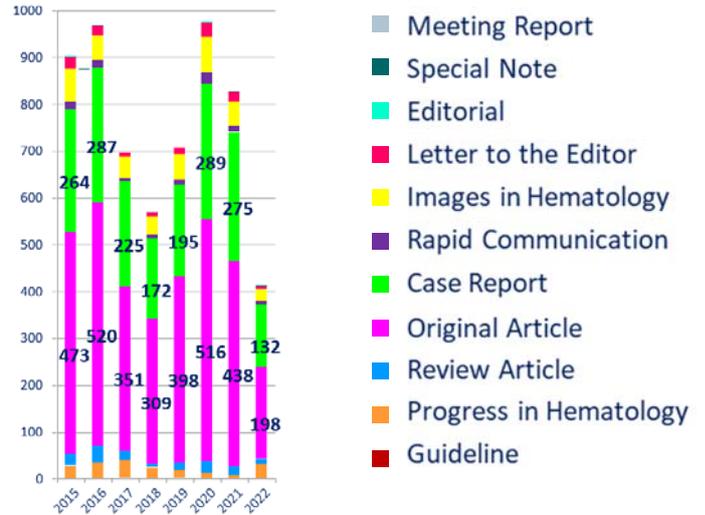
水原 健太郎 (京都府立医科大学大学院医学研究科 血液内科学) e-Poster 発表

“Watchful waiting is an acceptable treatment option for primary ocular adnexal mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma: A retrospective study”

《地域別投稿数》



《論文種別投稿数》

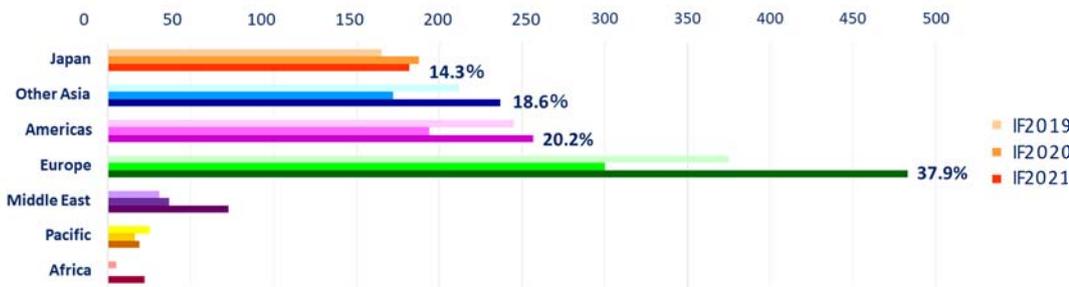


投稿数：2018年572件,2019年706件,2020年976件,2021年827件,2022年413件 (6/30現在)

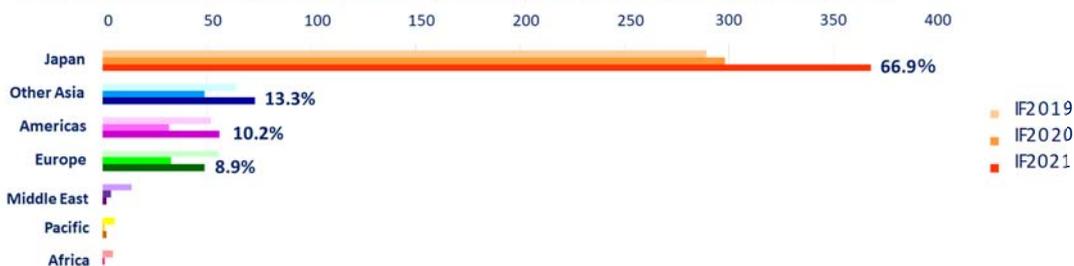
(Source: Editorial Manager, as of 30 Jun 2022)

《2019-2021年に出版されたIJHの地域別引用状況》

Location of authors citing IJH (articles published in each IF year)



Location of authors published in IJH (articles published in previous two years)

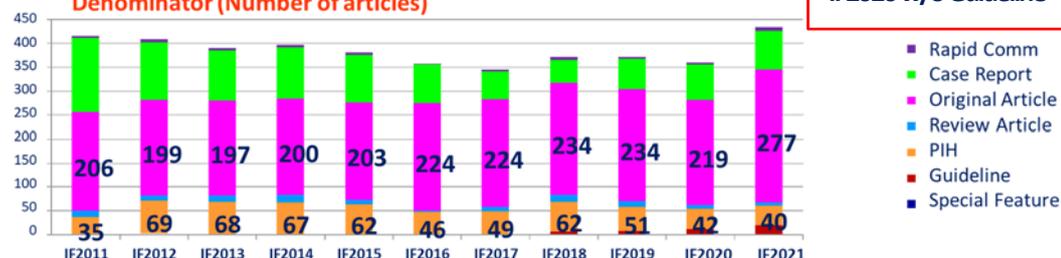


<<Impact factor>> Numerator (Number of citations)



IF2020 w/o Guideline = 2.481 IF2021 w/o Guideline = 2.298

Denominator (Number of articles)



# 「臨床血液」誌 《2022.9.8 現在》

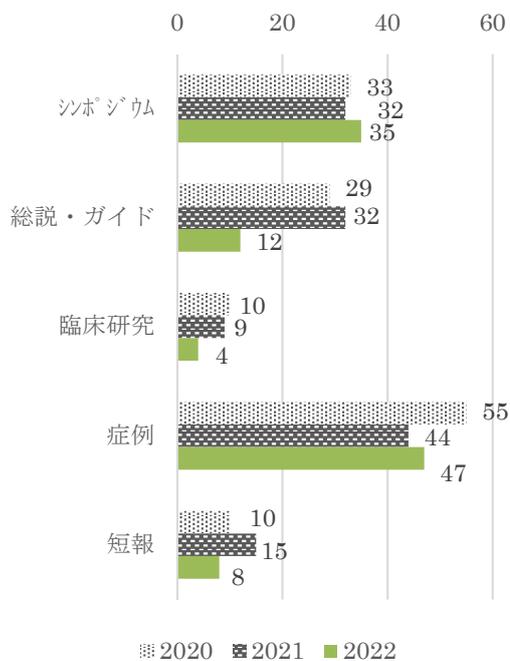
## 2021年発刊状況

巻/号	頁数	シホ°	総説	臨研	症例	短報	計
61-1	75	0	0	1	7	3	11
61-2	77	0	4	0	2	1	7
61-3	71	0	0	2	4	3	9
61-4	113	5	2	1	4	1	13
61-5	205	9	12	0	2	0	23
61-6	160	4	7	0	1	0	12
61-7	176	14	1	0	3	0	18
61-8	474	第83回学術集会 教育講演号					54
61-9	96	0	2	2	3	1	8
61-10	102	0	2	1	6	2	11
61-11	106	0	2	2	6	4	14
61-12	114	0	0	0	6	0	6
計	1,769	32	32	9	44	15	186

## 2022年発刊状況

巻/号	頁数	シホ°	総説	臨研	症例	短報	計
62-1	82	0	0	2	8	1	11
62-2	86	0	1	0	4	5	10
62-3	76	0	0	0	10	1	11
62-4	88	5	1	1	4	0	11
62-5	190	13	1	1	2	0	17
62-6	200	10	2	0	5	0	17
62-7	126	0	7	0	8	0	15
62-8	131	7	0	0	6	1	14
62-9		第84回学術集会 教育講演号					
62-10							
62-11							
62-12							
計	979	35	12	4	47	8	106

### カテゴリー別掲載状況



### ◆採用日数平均◆

58巻	85.6日
59巻	86.3日
60巻	87.4日
61巻	66.8日
62巻	78.6日

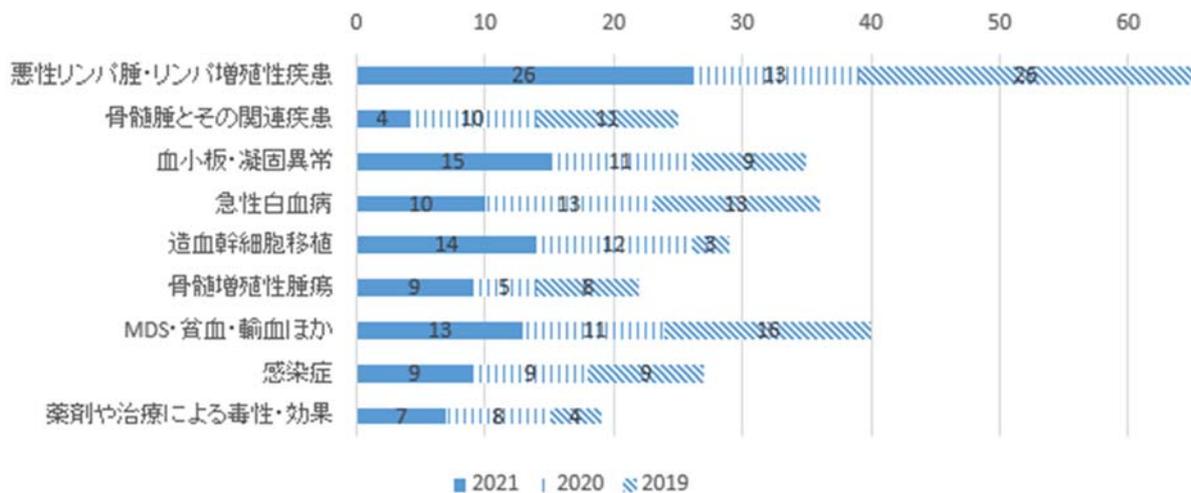
### ◆年度別採用率◆

	投稿数	採用数	採用率
2018年	101	88	87.1%
2019年	106	85	80.1%
2020年	93	74	79.6%
2021年	113	96	84.9%

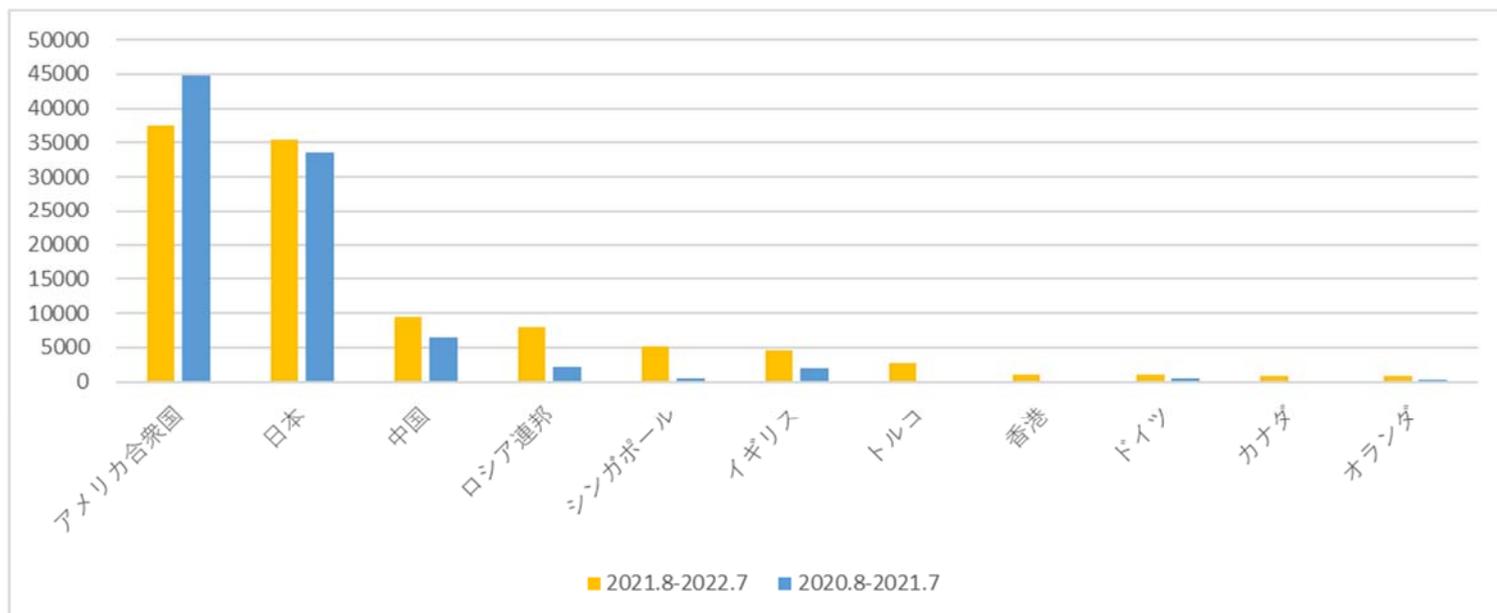
### 《連載コーナー》

- Picture in Clinical Hematology
- Introduce My Article
- Take Me Out to the Congress Abroad
- りんけつクイズ
- Rinketsu Dictionary

### 領域別論文投稿数



## J-STAGE 国別アクセス数 (2020年8月～2022年7月)



## 2021年度 査読者TOP10 (敬称略) ※延べ査読数による

1	和田秀穂	2	丸山 大	3	安本篤史	3	石澤賢一	5	大森 司	5	長谷川大輔
7	森 毅彦	7	川端 浩	7	朝倉英策	7	得平道英	7	名島悠峰		

## J-STAGE アクセス数 TOP10 (2021年8月～2022年7月)

筆頭著者	論文タイトル	巻数	アクセス数
柏木浩和	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019改訂版	60	11,070
萩原政夫	新型コロナウイルスワクチン投与後に発症した重篤な血小板減少症	62	4,493
今井陽俊	急性リンパ芽球性白血病—病態解明の進歩と治療の現在—	58	3,227
宮崎香奈	CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	56	3,123
今岡禎治	慢性骨髄性白血病の経過中、急性転化の初発症状として右脛骨骨端部に骨髄芽球腫を形成した1例	17	2,863
松井俊和	特徴的皮疹を欠く全身性varicella-zosterウイルス感染症にて死亡した、悪性リンパ腫の1例	33	2,753
瀬崎達雄	多発性骨髄腫	30	2,672
原田結花	慢性骨髄単球性白血病(CMML)	57	2,545
奥野真吾	BNT162b2 mRNA COVID-19ワクチン接種後に発症した自己免疫性溶血性貧血	62	2,519
新田英昭	MYC関連B細胞リンパ腫の病態と治療	60	2,300
宮本由夏	エロモナス菌による重症腸炎をきたした造血器腫瘍 - J-Stage	58	2,199

## J-STAGE ダウンロード数 TOP10 (2021年8月～2022年7月)

筆頭著者	論文タイトル	巻数	DL数
柏木浩和	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019改訂版	60	25,256
宮川義隆	妊娠合併特発性血小板減少性紫斑病診療の参照ガイド	55	10,994
藤村欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版	53	5,347
吉崎和幸	キャッスルマン病診療の参照ガイド	58	3,385
松本雅則	血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 診療ガイド2017	58	542
萩原政夫	本邦の血液疾患におけるCOVID-19のマネジメント	32	476
原田結花	慢性骨髄単球性白血病(CMML)	57	399
宮崎香奈	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫における遺伝子発現プロファイリング—CD21抗原発現による比較—	20	326
新田英昭	MYC関連B細胞リンパ腫の病態と治療	60	324
川島直実	FLT3 変異陽性AMLに対する治療戦略	62	323
丸山 大	DLBCL/HGBCLの診断と治療戦略	59	305

## 診 療 【医薬品等承認・供給】

### 1. 要望書提出

- ・カブラシズマブ製剤の在宅自己注射指導管理料算定対象薬剤への追加に関する要望書  
⇒2022年7月4日厚労省に提出
- ・「B001-2-12 外来腫瘍化学療法診療料」の施設基準についての要望書  
⇒2022年8月29日中央社会保険医療協議会に提出

### 2. 審議結果報告

- 1) コホリン®静注用7.5mg製造販売中止について（2022年7月）  
継続的に使用している施設等にKMバイオロジクスから個別に説明し、了承を得ている。販売中止は了解可能である。
- 2) 三酸化ヒ素(ATO)の使用実態調査について：医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議  
(A) 寛解導入：ATRA + ATO 寛解後療法：ATRA + ATO 29例、(B) 寛解導入：ATRA + ATO 寛解後療法：ATOを用いない治療 7例、(C) 寛解導入：ATOを用いない治療 寛解後療法：ATRA + ATO 104例についての調査を求められたが、(C)は先行する化学療法の影響を避けられないため、(A)、(B)についてのみ調査する方針で回答した。
- 3) 中枢神経リンパ腫に対する標準量thiotepaの使用実態調査について：医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議  
調査・研究の方式、調査・研究実施グループについて決定し、学術・統計調査委員会に提出した。
- 4) トリセノックスのアンプル製剤市場引き上げについて（2022年8月）  
バイアルとアンプルでは濃度が異なるため、診療現場の混乱を避けるためにアンプル製剤の引き上げは妥当と判断した。
- 5) COVID-19における血液診療への影響に関する研究（日本医学会連合主導）のWGメンバー募集（2022年8月）

### 4. 供給停止品目についての確認

- ・令和4年度 第2回 供給停止予定品目（令和4年7月15日）
- ・令和4年度 医療機器・体外診断用医薬品 供給停止品目（令和4年7月15日）
- ・令和4年度 医療機器・体外診断用医薬品 供給停止品目（令和4年8月5日）

### 5. 内保連関連

特になし

## 診 療 【診療実務関連】

2021/3 JSH ホームページに掲載した COVID-19 についてのステートメント(新型コロナウイルス感染症蔓延下における血液疾患診療について—留意事項—)の査読

2021/7 JSH ホームページに掲載した COVID-19 についてのステートメント(新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連情報—新型コロナウイルスワクチン接種上の注意—)の査読

## 造血器腫瘍ガイドライン

### ● 造血器腫瘍診療ガイドライン第3版準備

執筆委員 (58名)

- ・白血病 (29名)：清井仁 (領域委員長) 他, AML 5名, APL 3名, ALL/LBL 6名, CML/MPN 7名, CLL/SLL 2名, MDS 5名
- ・リンパ腫 (19名)：永井宏和 (領域委員長) 他, FL 2名, MALT リンパ腫/LPL/WM 3名, MCL 2名, DLBCL 3名, BL 2名, ENKL/PTCL 2名, ATLL 2名, HL 2名
- ・骨髄腫 (10名)：尾崎修治 (領域委員長) 他, 9名

## Systematic review チーム (97名)

- 白血病 46名：AML 8名，APL 6名，ALL/LBL 9名，CML/MPN 9名，CLL/SLL 4名，MDS 10名
- リンパ腫 31名：FL 4名，MALT リンパ腫/LPL/WM 4名，MCL 3名，DLBCL 5名，BL 3名，ENKL/PTCL 4名，ATLL 4名，HL 4名
- 骨髄腫：20名

## 評価委員

- 評価委員長：張替秀郎
- 白血病：中島秀明（領域委員長），後藤明彦，門脇則光，齋藤健
- 骨髄腫：中世古知昭（領域委員長），照井康仁，服部豊，坂井晃
- リンパ腫：石塚賢治（領域委員長），山口素子，鈴木律朗，安藤潔
- 移植：内田直之
- 放射線領域：江島泰生，田口千蔵，鹿間直人，長谷川正俊

## 進捗状況

- パブコメ終了，第3稿執筆中（10月13日現在予定）
- 今後の予定：
  - 最終稿提出12月
  - 2023年4月初旬印刷・製本，中旬配本

## ゲノム医療

### 1. 造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン 2021年度版のアップデート

新たな項目「9. 遺伝子パネル検査結果の迅速返却について」を設け、パネル検査の迅速結果返却が望ましい遺伝子異常（「Fast-track 対象遺伝子異常」）を、遺伝子異常の種類、疾患ごとに検討し、「Fast-track 対象遺伝子異常」と定義、3月に公開した。

### 2. ゲノム知識データベースキュレーターを選出

パネル検査の臨床実装に備え、ゲノム医療委員会委員が所属する各施設より、遺伝子異常の臨床的意義付けを行う専門家（curator：キュレーター）を18人選出したうえで、公募によりさらに18人の参加希望者を追加した（チームリーダー：南谷泰仁 東京大学医科学研究所血液腫瘍内科 教授）。キュレーターは、国のがんゲノム情報管理センター（C-CAT）と協同して造血器腫瘍分野の知識データベース（CKDB：Cancer Knowledge DataBase）の充実を図る。

## 研究助成

目的：血液学における基礎・臨床の研究（血液疾患患者の利益となる研究）を発展させることを目的として当学会が実施する研究支援事業。  
ピアレビュー（血液学分野の複数の研究者による審査）により、血液学の発展に貢献する研究に対し助成を行う。

助成件数：約100件

助成金額：1件当たり20万円～200万円

対象：血液学の臨床的・基礎的研究を対象とします。なお、薬剤を用いた介入研究は、対象外とします。

応募資格：日本血液学会会員で、上記の研究が可能な施設に所属する医師及び研究者（研究グループを除く）各講座（又は診療科）単位で申請できるのは、1課題とします。

申請期間：2022年6月1日（水）～6月27日（月）

審査期間：2022年7月4日（月）～8月1日（月）

採否決定：2022年9月中頃

## 応募・採択状況

	2020年	2021年	2022年
申請数	192件 基礎領域 61件 臨床領域 131件	192件 基礎領域 57件 臨床領域 135件	143件 基礎領域 46件 臨床領域 97件
採択数	143件 基礎領域 42件 臨床領域 101件	147件 基礎領域 44件 臨床領域 103件	118件 基礎領域 38件 臨床領域 80件

協賛：アッヴィ（合同）、サノフィ（株）、ノバルティス ファーマ（株）、  
ブリストル・マイヤーズ スクイズ（株）、

## 学術・統計調査事業

### 学術・統計調査

#### 1. 血液疾患登録事業

- ① 研究実施計画書（第6版）  
2021年改定  
疾患登録期間：2031年12月まで
- ② 登録データ二次利用申請：6件
- ③ 2021年診断例 団体別施設登録数及び登録数  
データセンターで集計中  
9月中に報告→学術集会にてポスター掲示予定

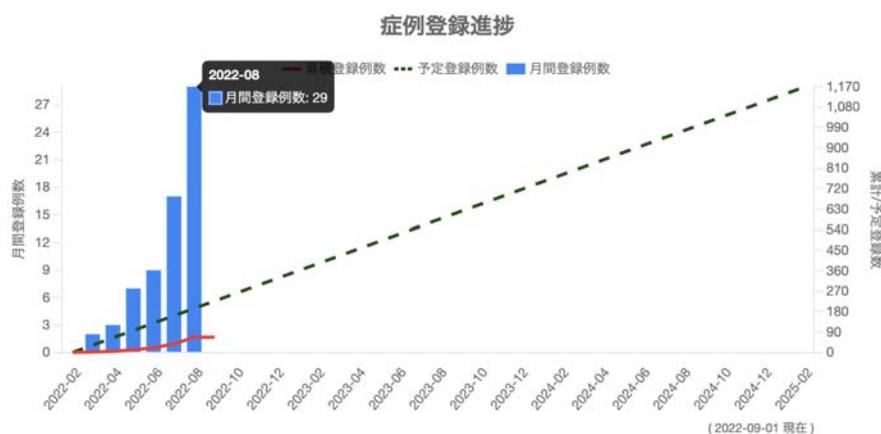
## 多発性骨髄腫研究

「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究」

### 1) JSH-MM-20 研究の進捗状況

登録期間 3年間で1,200例の登録が目標

2022年8月31日までに36施設で施設長許可、内17施設から計67例を登録



年5例以上の登録があり、且つデータ入力支援希望のある施設と一般社団法人 IIS 支援センターとの契約作業を開始

9月5日時点で80例まで登録

### 2) JSH-MM-15 のデータ解析と公表

2022年7月1日にデータ固定完了

2022年8月24日に研究事務局と代表者にSAPに基づく解析結果が到着

2022年10月14日～16日の第84回日本血液学会学術集会において主要評価項目を中心に口演発表の予定

全身化学療法を要する形質細胞腫瘍患者 1,385 例  
全身化学療法を要さない形質細胞腫瘍患者 550 例

## MPN 観察研究

### ●JSH-MPN-15

「日本における骨髄増殖性腫瘍の予後に関する大規模多施設前向き観察研究」

デザイン：多施設共同前向きコホート

研究対象：MPN (PV、ET、prePMF、PMF)

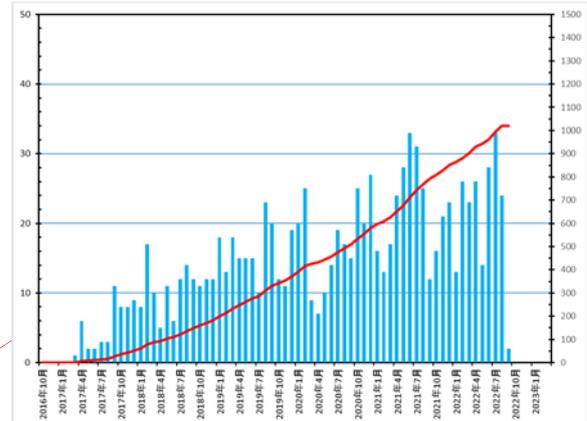
目標症例：1,500 例 (ET 900 例、PV 500 例、prePMF/PMF 100 例)

登録期間：7 年 (2016 年 4 月～2023 年 3 月)

観察期間：10 年

倫理委員会承認施設：63 施設

進捗状況 (2021 年 8 月末時点)：1,026 例



### ●JSH-MPN-R18

「日本における真性多血症および本態性血小板血症患者の臨床像、生命予後およびイベントリスクに関する多施設後方的研究」

Clinical characteristics, prognostic factors, and outcomes of patients with essential thrombocythemia in Japan: the JSH - MPN - R18 study

Hashimoto Y, et al. Int J Hematol 2022 Feb;115(2):208-221

Clinical characteristics of Japanese patients with polycythemia vera: results of the JSH-MPN-R18 study  
Edahiro Y, et al. Int J Hematol. 2022 Jul 9. doi: 10.1007/s12185-022-03412-x. Online ahead of print.

データ二次利用について申請 2 件あり、現在倫理審査中

## J-SKI 研究

「慢性骨髄性白血病患者に対するチロシンキナーゼ阻害薬中止後の無治療寛解維持を検討する日本国内多施設共同観察研究」

「慢性骨髄性白血病患者に対するチロシンキナーゼ阻害薬中止後の無治療寛解維持を検討する日本国内多施設共同観察研究 (JSH-J-SKI)」 第 3 回年次報告

### 対象患者

CML 患者で以下の選択基準を全て満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者を登録適格例とする。

#### 登録適格基準

- 1) major BCR-ABL 陽性 CML 症例
- 2) TFR の成功・失敗に関わらず、何らかの理由で TKI 治療を中止した患者、臨床試験で TKI を中止したことのある患者、またはこれから何らかの理由で TKI 治療を中止する予定の患者
- 3) 文書による本人 (未成年者の場合は本人および代諾者) の同意が得られた患者

#### 登録除外基準

- 1) TKI 中止前後または TKI 再投与後の臨床情報や検査結果を提供できない患者
- 2) その他、試験への参加が困難と担当医師が判断した患者

## 症例の内訳

登録例：	513 例				
			同意撤回例：	2 例	
			*60ヵ月時点不検査例：	24 例	
過去のTKI中止例：	325 例		新規TKI中止例：	162 例	
*観察期間が60ヵ月未満の場合					

## 「日本における血液疾患患者を対象とする COVID-19 罹患状況、予後に関する横断研究」

- ・対象：日本血液学会 疫学調査「血液疾患登録」に登録されている患者で、COVID19 の確定診断を受けた患者
- ・主要評価項目：診断後 2 ヶ月時点での全生存率
- ・目標症例数：100 例
- ・予定登録期間／研究期間：倫理審査承認から 1 年／2 年
- ・症例登録数（2022 年 5 月 31 日登録終了）：367 例（60 施設から）
- ・データ固定（2022 年 8 月 10 日）
- ・現在論文執筆準備中

## ICD11

1. Foundation 版の和訳作業（2021 年 12 月提出）
  - （ア）日本血液学会担当の 1,441 用語について和訳作業を完了
  - （イ）MMS 版 2 訳語の追加変更
2. 改訂提案に対する意見募集（2022 年 5 月提出）
  - ・ SAC で提案された ICD-11 に関する改正案についての意見提出（1 語）
  - ・（2022 年 6 月提出）日本内科学会より検討依頼分（2 語）
3. 和訳に関する追加依頼（2022 年 7 月提出）
  - ・ MMS 版ファイルの 2021 年 5 月版から追加・変更が行われた用語（172 用語）についての和訳の確認（3 語）

## 人材育成事業

### 専門医認定制度

- 1) 専門医等取得状況 2022 年 9 月 1 日現在
 

専門医	4,477 名
指導医	2,436 名
血液専門研修認定施設	438 施設
血液専門研修教育施設	228 施設

## 2) 専門医認定試験

2022年度(第31回)血液専門医認定試験

日時 2022年6月26日(日)13:00~15:00

会場 東京国際フォーラム ホールD1・D7(東京都)

受験者数 136名(欠席1名) 合格者121名 不合格者14名(合格率89.62%)

## 3) 新専門医制度について

- ・日本専門医機構認定：サブスペシヤルティ領域として認定(2022年3月31日付)  
基本領域：内科領域 並びに 小児科領域
- ・日本専門医機構認定へ向けての対応  
整備基準 修正版の再提出  
研修カリキュラムの改訂
- ・日本専門医機構によるサブスペシヤルティ領域専門研修プログラム申請についての周知

## 教 育

### 1. 第14回「研修医(初期・後期)のための血液学セミナー」について

開催概要

開催形式：完全Web

日時：2022年8月27日(土)：13:00-16:50

2022年8月28日(日)：9:00-11:35

Ask the expert：11:45-12:45

#### (1) プログラム構成

- a) 全体プログラム
- b) グループプログラム
- c) 希望の話題毎の小グループでエキスパートとの意見交換

#### (2) セッション数

全体プログラム：3

グループプログラム：3

共催セミナー：2

参加費：3,000円(昨年度と同額)

参加者：8/27(土)88名、8/28(日)83名

Ask the expert参加者：47名

### 2. 第12回若手臨床血液学セミナーについて(日本血液学会「協力」)

ノバルティス、協和発酵キリン、二社主催にて実施

完全Webにて開催(配付資料はこれまで同様に印刷物として準備)

令和4年11月に3日に分割して開催予定

11月12日(土)9:00 - 16:40(小児コース最終)

11月13日(日)9:00 - 16:30(内科コース最終)

11月20日(土)9:00 - 16:40

\*小児コース：午前中、共通コース：お昼、内科コース：午後

Webスタッフ会場：赤坂インターシティコンファレンス

参加費用：11,000円を予定

\* 免疫療法、形態セッション、内科・小児・共通コースあり。

\* リンパ腫、移植については2セッションに分割

### 3. 血液専門医テキスト(改訂第4版)作成(専門医認定委員会との共同作業)

原稿締めきり：2022年8月1日

原稿査読等をへて編集作業中。2023年9月刊行を目標

## 普及啓発事業 広 報

### 1) 日本血液学会ニュース（メール便）定期便および臨時便の発行

#### ① 2022年度（令和3年8月～令和4年7月）の発行回数

定期便 12回

臨時便 49回：84回学術集会、JSH国際シンポジウム、研修医のための血液学セミナー、若手臨床血液学セミナー、血液専門医関連、血液疾患症例登録、賞募集案内、海外派遣プログラム参加者募集、年会費納入のお願い、地方会開催案内、新評議員申請受付開始のお知らせ、関連学会情報など

海外メール配信4回：84回学術集会の案内、年会費納入のお願い

#### ② 上記①以外のニュース便を配信

- ・2021年9月：第9回定時社員総会 議決権行使のお願い
- ・2021年10月：造血器腫瘍診療ガイドラインに対するアンケート調査のお知らせ
- ・2022年1月：「中枢神経系原発リンパ腫に対する標準量チオテパの実施経験について」一次調査ご協力のおお願い
- ・2022年3月：「造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン 2021年度一部改訂版」 公開

#### ③ 海外へのプロモーション

海外会員及びEHA, ASH Congress にて取得した海外研究者／関係者のEメールアドレス宛に、JSH学術集会の諸案内を配信

#### ④ 配信数：テキスト版・HTML版を合わせ7,494件（2022年7月号での会員宛配信実数）。昨年7月配信数（7,316件）より178件増加

### 2) 日本血液学会ホームページ

- ・日本血液学会ホームページの改修（研修医・医学生向けサイトのコンテンツ追加：活躍する女性医師／研修医のための血液学セミナーに参加して／研修医（初期・後期）のための血液学セミナー開催案内）
- ・学術集会抄録集アーカイブ第83回を追加

## 学会活性化

- ・2020年に発足。
- ・学会活性化の施策を横断的・俯瞰的に検討する委員会。
- ・委員会で提案されたおもなポイント
  - 若手が主体となる活動
  - Community hematologistが主体となる活動
  - 女性活躍
  - 働き方改革
  - 患者向け情報発信の促進
  - コロナ禍でWEB開催が主流となってきた開催方法を学会活性化にどのように活かせるか
- ・日本血液学会ニュースで、学会活性化に向けた提案を会員から募集。

## 地方会活性化

- ・学会活性化委員会の下部組織として2020年に発足。
- ・地方会間の情報交換を促進し、地方会活性化や若手のリクルートに役立てる。
- ・各地方会の現状と取り組み
  - 地方会HP — 関東甲信越、北陸、東海、九州に加え東北も
  - 運営ノウハウの情報交換
  - 研修医・学生向けの勧誘プログラム
  - 地方会事務局の財源確保
  - 本体事務局と地方会事務局の連携による業務の効率化

- Community hematologist に対するサポート
  - 診療委員会の地域医療・在宅医療連携ワーキンググループに参画
  - 診療所や中小病院での外来化学療法を促進する外来腫瘍化学療法診療料の施設基準要望書

## 女性活躍

1. 会員構成 女性：18.8% (2009 年) ⇒ 24.5% (2021 年)  
男性：81.2% (2009 年) ⇒ 75.5% (2021 年)
2. 評議員構成 女性：5.8% (2012 年) ⇒ 12.2% (2021 年)  
男性：94.2% (2012 年) ⇒ 87.8% (2021 年)
3. 地方会女性枠運用実績 (2015 年—2021 年 (7 年間))  
新評議員 305 名 (男性 223 名 (73.1%) : 女性 65 名 (26.9%)  
(うち女性枠評議員 31 名 (10.1%))
4. 学術集会における女性シンポジウムの開催  
女性医師シンポジウム (第 84 回学術集会)
5. 学会のホーム・ページのコンテンツ (活躍する女性医師からのメッセージ) 等の掲載
6. 「育休復帰支援 e-learning」(10 月学会HP掲載予定)
  - 30 分程度の教育講演：基本的 11 疾患
  - 講演の内容に即した多肢選択形式・7 or 8 題程度
  - 10 月学会HP掲載予定
    - 再生不良性貧血 山崎宏人先生 (金沢大学)
    - 急性骨髄性白血病 堺田恵美子先生 (千葉大学)
    - 急性リンパ性白血病水田秀一先生 (金沢医科大学)
    - 骨髄異形成症候群 波多智子先生 (長崎みなとメディカルセンター)
    - 慢性骨髄性白血病 高久智生先生 (順天堂大学)
    - ホジキンリンパ腫 錦織桃子先生 (京都大学)
    - B 細胞リンパ腫 福原規子先生 (東北大学)
    - T/NK 細胞リンパ腫 山口素子先生 (三重大学)
    - 多発性骨髄腫 成田朋子先生 (名古屋市立大学病院)
    - 小児疾患 江口真理子先生 (愛媛大学)
    - 血栓止血 (COVID19) 森下英理子先生 (金沢大学)

企業協賛：アストラゼネカ株式会社、ジェンマブ株式会社、  
ノバルティス ファーマ株式会社

## 賞 等

- 1) 日本血液学会賞：副賞 100 万円  
豊嶋 崇徳 (北海道大学大学院医学研究院内科系部門内科学分野血液内科学教室・教授)  
代表研究：造血細胞移植・免疫療法に対する基礎的・臨床的貢献
- 2) 日本血液学会功労賞：副賞 100 万円  
須田年生 (熊本大学卓越教授・第 70 回日本血液学会学術集会会長)  
中畑龍俊 (京都大学名誉教授・第 71 回日本血液学会学術集会会長)
- 3) 奨励賞 (第 83 回日本血液学会学術集会発表)：副賞各 30 万円 ※所属は発表当時  
安達 慶高 (名古屋大学 血液・腫瘍内科)  
Genome-wide CRISPR-Cas9 screening to identify the genes regulating human CAR-T cells proliferation  
一色 佑介 (千葉大学血液内科)  
Identification of transcriptional features & surface markers of plasma cell clones in POEMS syndrome  
上村 駿 (東京大学医科学研究所)  
A novel YAP/TAZ activator preserves bone marrow environment and promotes hematopoietic regeneration  
奥田 瑠璃花 (京都大学大学院 腫瘍生物学講座)  
ETNK1 mutations defines a subclass of der(1;7)(q10;p10) in myelodysplastic syndromes

田中 淳 (神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 血液・腫瘍研究部)

Aberrant RNA splicing contributes to the pathogenesis of MECOM-related AML and congenital disease

富樫 朋貴 (金沢大学大学院 病態検査学講座)

Adeno-associated virus vector-mediated gene therapy for congenital protein C deficiency in mice

西村 聡 (東京医科歯科大学 発生発達病態学分野)

Myeloid/natural killer (NK) cell precursor acute leukemia as a novel distinctive leukemia entity

森田 麻衣子 (東京大学医科学研究所 幹細胞生物学分野)

A novel experimental approach for generating bone marrow chimeric mice in nonconditioned transplant

藪下 知宏 (東京大学医科学研究所 細胞療法部)

Mitotic fidelity confers resistance to DNA-hypomethylating agents in myeloid malignancies

山本 圭太 (東京大学 医科学研究所 細胞療法分野)

ASXL1 promotes paraspeckle formation through its C-terminal IDR in hematopoietic cells

4) 日本白血病研究基金助成 (学会推薦)

安達 慶高 (名古屋大学 血液・腫瘍内科)

5) 若手論文賞：副賞各 30 万円

佐伯 龍之介 (京都大学 医学研究科 腫瘍生物学)

村上 紘一 (慶應義塾大学医学部 血液内科)

6) 外郭団体各賞

推 薦：日本医師会医学研究奨励賞

推薦募集：藤原賞、慶應医学賞、日本学術振興会賞、持田記念学術賞、日本学術振興会育志賞、

太田原豊一賞、安田医学賞、日本医師会医学賞、日本医学会総会奨励賞、文部科学大臣表彰

7) JSH Travel Award for the EHA2022 Hybrid Congress 選考

## 倫 理

日本血液学会学術集会への演題募集における倫理手続きに関する指針について

- ・登録時に 倫理的手続きを確認できない場合は、演題登録ができない旨の予告を第 83 回総会から開始している
- ・2023 年の第 85 回日本血液学会学術集会から演題登録時に開示していただく形式に変更した

## COI

1. 規定、申告書の改訂および日血HP 利益相反ページの更新

- ・「日本血液学会 医学系研究の利益相反(COI)に関する共通指針」改訂 (2022年5月一部改訂)
- ・日本血液学会 講演会および機関誌における利益相反 (COI) の開示
- ・Disclosure of Conflict of Interest (COI) in Conferences and/or Official Journals of the Japanese Society of Hematology (JSH)
- ・COI Self-Report Form in Conferences [英語版]

2. COI 自己申告の実施

- ・本学会主催の学術集会発表者 (共同演者を含む) : 演題登録時に申告
- ・本学会機関誌 (臨床血液、IJH) で発表を行う著者全員
- ・本学会役員 (理事長、理事、監事)、学術集会会長・次期会長、・国際シンポジウム会長、次期国際シンポジウム会長、各種委員会のすべての委員長/副委員長、特定の委員会委員など

3. 役員 COI 自己申告書について、COI 委員長による調査を実施

4. 地方会による学会 COI 登録システム利用開始